SPECIAL

特集 さまざまな課題に対応するために

習得から活用へ ―1 Lessonの授業づくり

重松　靖（国分寺市立第二中学校）

学力の３要素

学校教育法第30条第２項には，「（前略）生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに特に意を用いなければならない」とある。その後告示された学習指導要領でも学力の重要な要素として，①基礎的・基本的な知識・技能の習得，②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等，③学習意欲，の３つを示した。

外国語の学びのプロセス

NEW CROWN（以下*NC*）は平成24年度版以降，この学力の３要素とPPPという指導手順を意識して単元を構成してきた。PPPとは，Presentation（提示），Practice（練習），Production（表現），つまり新しい表現に出会い（Presentation），その意味や使い方に習熟し（Practice），自分の考えや感想，自分自身のことを表現する（Production），という学びのプロセスである。

*28NC*においても，１年入門期を除き，どの学年のレッスンも原則的に次の５種類のページから成る。すなわち，①とびら，②GET，③USE Read，④USE Speak / USE Write，⑤まとめ，である。学びの見通しを立て，学習に対する意欲を喚起する「とびら」（Presentation），基礎的・基本的な知識・技能を習得する「GET」（Presentation，Practice），知識・技能を活用して課題を解決する「USE」（Practice, Production），学習したことを振り返り，基本的な知識・技能を確実にし，さらに学び続けようという意欲を持たせる「まとめ」という構成である。なお，「聞くこと」は Let's Listenとして独立させ，学年に６ヵ所ずつ配置している。

見通しを持たせ，意欲を喚起する「とびら」

Book 1 Lesson 9を例に，実際の指導を考えてみたい。

「とびら」はそのレッスンの入り口，導入部である。映画でいえば「予告編」，単行本であれば「帯」の役割を果たす。すなわち，概要を紹介し，さらに観てみたい，読んでみたいという意欲を喚起させるものでなければならない。

Lesson 9のとびらのページでは，まず美しい４枚の写真に目を奪われる。写真下には① What do you see in these pictures? という問いがあり，生徒は一枚一枚の写真をじっくり観察することになる。「桜」「紅葉」「夏祭り」「雪まつり」，Lessonタイトルは Four Seasons，「ははあ，このレッスンでは日本の四季を取り上げるんだな」と生徒は予想する。さらに Which season do you like? という質問②によって，その題材を自分のものとしてとらえるようになる。

ページ下の「この課で学ぶこと」には，この課で具体的に学ぶ内容が書かれており，生徒が目指すべきゴールが明確に示される。現在，学習到達目標を「～することができる」というCAN-DOリストの形で具体的に設定することが求められている。この課の場合，学力の３要素と観点別評価と照らし合わせると，単元目標は①「学校生活についての記事を書く」（活用，外国語表現の能力），②「一般動詞の過去形を理解する」（基礎的な知識，言語に対する知識・理解），③「間違いを恐れず学校生活についての英文を書く」（学習意欲，コミュニケーションへの関心・意欲・態度）となろう。

基礎的・基本的な知識・技能を定着させる GET

GETは，基礎的・基本的な知識・技能習得のページである。POINTに示される基本文は，これまでに学習した現在時制とポイントとなる過去時制を対比させ，違いが明確になるようにしている。Drillは基本文の定着を目的とした機械的なドリル（Mechanical Drill）である。「聞いて理解する」（Listen & Choose）→「聞いて，繰り返す」（Listen / Repeat）→「絵を見て英文を話す」（Say）→「絵を見て英文を書く」（Write），のように small stepsを意識しながら，確実に身につくようにしている。

POINTで学習した基本文を用いて，「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の基本的な技能を身につけるのが右ページのPracticeである。Mechanical Drillに続くMeaningful Drill，Communicative Drillにあたる。ここでも生徒に負担がかからないよう，音声から文字，理解から表現，というプロセスを重視し Listen，Speak，Writeの順としている。さらに，「健が週末にしたことに○をつけよう」（Listen），「先週末にしたことについて，ヒントを参考にして，ペアで話してみよう」（Speak），「自分がしたことと，相手が話したことを書いてみよう」（Write），のようにできるだけ一貫したテーマで活動が連続し，しかも自分自身のことを表現できるようにしている。

GETの本文は，レッスン全体のテーマに関連した比較的短い英文を読むことを通して，ポイントとなる文法事項を定着させる。Lesson 9の場合，GET Part 1ではエマが日本で旅したこと，Part 2ではエマが秋田を訪れ，かまくらを体験したことを，ポイントとなる過去時制を用いてブログという形で紹介している。英文の内容を理解した後は，暗唱できるまで音読してほしい。

習得した知識・技能を活用する USE

基礎的・基本的な知識・技能を活用し，自在に使えるようにするのがUSEである。*28NC*では全レッスンにUSE Readと題材や言語材料に応じてUSE WriteまたはUSE Speakを配置している。

USE Readは，１文ずつ日本語に直す訳読式ではなく，何度も繰り返し読みながら内容を理解していく。外国語学習のためのテキストではなく，Reading for fun / Reading for informationという日常生活における本来の「読み」にできるだけ近づけたいと考えている。

*28NC*では，概要から細部の理解へというステップを踏むため，「内容のおおすじをつかむ」1st Reading，「細かい内容をおさえる」2nd Reading，「内容をふり返る」3rd Readingという３つの質問を用意している。生徒はこれらの問いに答えながら，繰り返し繰り返し読み，内容を理解していく。左ページにはTips for Readingという読むためのヒントや，Notesとして内容を理解するために必要となる予備知識が書かれている。Lesson 9では「タイトルと写真から内容を予測しながら読んでみよう」というヒントと，五山送り火についての説明がなされている。さらに，新出語彙については生徒の負担を軽減するために日本語の意味が書かれている。こうしたステップやヒントを使いながら生徒に「読めた！」「わかった！」「できた！」という達成感を味わわせたい。訳読式の指導では味わうことができない満足感である。

このレッスンの学習到達目標の１つである「学校生活についての記事を書く」のがUSE Writeである。まずモデルとなる健の学校紹介記事ができ上がるまでの手順，すなわち，Step 1「できごとを選ぶ」，Step 2「日本語でメモを作る」，Step 3「日本語のメモから，Opening（できごと），Body（どこで，何をした），Closing（感想・まとめ）に分け，英語でメモを作る」，Step 4「英語のメモをもとに，文章を書き，タイトルと署名をつける」，という一連のプロセスを学ぶ。その後，右ページを使って，同じプロセスで各自が学校生活を紹介する記事を書く。

振り返り，整理する「まとめ」

最後にこの課で扱った文法事項や音のルールを振り返り，身につけたことを確認するまとめがある。さまざまな言語活動を通して身につけたことを文法というルールに当てはめ，理解をより強固なものにする。授業の最後に扱ってもよいし，家庭学習や自学自習のために活用してもよい。